

歯科技工士の多様性と未来像！

そろそろリスクル(学び直し)を始めよう！

経済活動において費用の請求先が顧客であると考えるとき、歯科医師の顧客は患者であるが、我々の顧客は患者ではなく歯科医師であるといえる。この視点を意識して技工のデジタル化を考える際に、製品の均質化や経済性の高さ、あるいは作業の省力化を優先するならば、それは『第三者の価値観』であることに気が付く。

つまり我々は、『高品質化』や『高付加価値化』、あるいは『自由な発想の具現化』が可能であるかをそこに追求すべきである。なぜなら我々技工士は、たとえそれが困難であっても、時に不経済でも、顧客である歯科医師の尊い思いに寄り添い、健康上の課題解決に挑戦してきたことに対して、これまで高く評価されてきただけでなく、歯科医師の思いと同様の尊さややりがいを医療人として共有してきた歴史がある。

これこそが今も昔も変わらない歯科技工士の魅力と価値観である。これまで過去約20年間のデジタル化を経て、確かに技工の省力化は推進されたが、『第三者の価値観』に基づいて決定されたルールによってのみ機能する歯科用CADを我々技工士も使い続けた結果、歯科医療専門職である歯科技工士の役割は終わるかのような印象を社会に与えてしまったのであれば、それには猛省が必要である。

同時に我々の仕事は、パソコン操作に終始する仕事とは異なり、①医療課題解決策の因果関係の理解に努め、②困難な状況にいかなる提案ができるのかを考え、③自身のアイデアを自由自在に形にする仕事であったことを今一度想起しなければならない。そして今こそ、独創的な発想を装置に具現化することに一生懸命になる姿を社会に示し、歯科技工士が切り開いていく医工連携イノベーションによってワクワクする未来を思い描く時である。さあそろそろリスクルを始めよう。

本セミナーでは、このような『自身の技工を自在にデジタル化して形にするスキル』を獲得するために汎用CADとWEB版3Dモデラーを活用する。